

## 要旨

ほとんどの大学生が、大学での最後の数年間に自分の将来のキャリアやどのように就職活動をするかについて考え始める。又、大学生が自分の希望するキャリアや選んだ理由について、さまざまな動機づけの要因がある。就職活動はその国の文化や大学が提供するサポートサービスによって、学生が選択するステップに影響すると言える。私達が日本で留学していた時、リカと比べて日本人の学生が経験する就職活動の多くに違いがある事に気づいた。そこで、私達の研究を通して男女の大学生の就職活動の経験の違いがあるかどうかを知りたいと思った。又これらの選択、希望、就職活動の経験がアメリカ人と日本人の学生の間でどのように異なるかを発見するだけでなく、就職活動の過程と、人々が彼らが望むキャリアを追求する動機となるものに焦点を当てた。二つの研究質問に答えるために、日米の大学生59名に質問をする為にオンラインアンケートを使って調査を行った。結果として、日本とアメリカでは、就職活動のプロセスが大きく異なることがわかった。日本人の大学生は通常、三年生から就職活動を初め、就職活動に専念するためにほとんどの単位を三年生の終わりまでに修了する。これは、アメリカ人の学生は通常四年生や卒業後に就職活動を始める事とは大きく異なる。日本の社会には、就職活動のためのより体系的なシステムがあり、学生は通常、皆同時にステップを始めまた完了する。プロセスは異なる場合があるが、日本とアメリカの大学には、学生が就職活動中に使用できる多くの類似した情報サービスがある。また、アメリカ人の学生は私生活の充実の為に、経済的安定に関心を持っていることにも気づいた。一方、日本人の学生は、会社への貢献度や同僚といかに協調していけるかについて懸念してる。